

Love In Action

The Heart of 'Love In Action'

イエスさまが私たちを通して被災者の方々の間を巡り歩いてくださって、励ましと慰めそして救いを与えて下さるように



Student Impact – Love in Action teams

Japan Campus Crusade for Christ

Team I ; 28th March- 3rd April (from Tokyo, Osaka) @Kesenuma City 16people

Team II ; 4^tApril-9thApril (from Nagoya)@Kesenuma City, 8people

Team III; 11th April- 17th April (from Tokyo, Osaka)@ Wakabayashi, Sendai City 11people

Team IV; 18thApril-24th April (from Tokyo,Yokohama, Kyoto)@Wakabayashi, Sendai City,8people

Team V ;29thApril-5th May (from Tokyo, Osaka)@Higashimatsuyama City,14people

loveinaction@studentimpact.jp

まことに主はシオンを慰め、そのすべての廢墟を慰めて、その荒野をエデンのようにし、その砂漠を主の園のようにする。そこには楽しみと喜び、感謝と歌声とがある。(イザヤ 51:3)

Report

Team I - II (岩手県水沢市→宮城県気仙沼市)

岩手県の水沢聖書バプテスト教会に滞在し、毎日車で1時間半かけて、宮城県の気仙沼に出かけていきました。(一日だけ大船渡に行きました。) 高齢で一人暮らしの方が多く、助けが必要でした。気仙沼聖書バプテスト教会のC牧師、また教会員のKさんの声かけで、近隣の方々の家や庭の瓦礫の片付け、ヘドロ撤去、泥だらけの畳を運ぶ作業、泥を洗い流す作業を行いました。皆さんのお祈りのバックアップと、Kさんや教会の方の日頃の地道な種まき、関係作りがあったため、親しく地元の人に寄り添い、共に泣き、共に笑い、くじけないで共にがんばっていきましょうね、と励ましの言葉をかけることができ、最後に祈りもさせてもらうことができました。また避難所でマッサージをしながら話を聞いたり、子供たちにお菓子やおもちゃを届け、一緒に遊んだりしました。その後チームと共に被災地に出かけていた滞在先の教会の求道者Sさんが、洗礼を受ける決心をしたという報告を受けました！

Team III-IV (宮城県塩釜市→仙台市若林区)

仙台市若林区荒井はまだ危険区域で、一般のボランティアが公には入れず40世帯が助けを求めていました。(海岸2kmの所です。)。第3チームは、その集落に住んでおられるたった一人のクリスチャンのYさん(仙台聖書バプテスト教会)のお宅を通してその地域で6世帯を手伝うことができました。その後、町内会長さんも訪ねてこられ、私たちの働きに対して一生忘れられないと頭を下げながら話してくれました。第4チームは、5軒のお宅で奉仕させていただきました。お庭の一部を整えさせていただいたSさん宅では、反対側の畑部分の表面に1~3cmの厚みで固まっていたヘドロのかたまりをスコップで取り一輪車に乗せて捨てに行く作業をただひたすら繰り返しました。道の向こうでは自衛隊の方々が行方不明者の搜索作業をされていました。毎日、作業させていただいたお家の方も交えてお昼の食事をできました。食事の前、作業後はそのお家の前でお家の方と共にその方々の祝福のために祈りました。また、雨の日、Yさん家族と一緒に食事と温泉に行きました。Yさんのご主人も、自分の霊的な状態を話してくれ、「自分はクリスチャンじゃないけど、それも変わっていくだろうな」とおっしゃっていました！

Team V (宮城県塩釜市→東松島市)

仙台市にある東仙台キリスト教会の方々と共に、教会の方々がほぼ毎日奉仕に出かけている東松島の家々のお手伝いをしました。(ある日は)東松島の4件のお宅のお掃除を手伝いました。床下に潜りこんでの作業。(本当に狭く、下はヘドロ、上は釘がむき出しという危険!) チームは、ドライバーが車2台で2人のみ、そして毎日往復2時間ドライブ。メンバーは未成年者が半分。ノンクリスチャンの学生が5人。他のクリスチャン団体と一緒に働き(総勢7,80名)、めちゃ暑い! という状況で、みんなの安全が一番の関心事と、祈りでした。お祈りと主の恵みによって、私達はひとりも病気になるたり、精神的にしんどくなったりせず、ケガ、事故もなく、1週間精一杯奉仕することができました。最終日、たくましく成長した、陽に焼けたみんなの顔が誇らしげでした。みんなでお掃除させてもらったS

さん宅の息子さんが Mixi でこんなつづやきを書いてくれていました。「いつぶりだろうか自宅の風呂入ったのは…。最高に気持ちよかった！！ボランティアの皆さんホントにありがとうございます！！」

Stories

主のなさることは時にかなって美しい！（気仙沼から）



第1チームに続く、名古屋からの第2チームから、うれしい（では言い表せない）報告を受けました。今日、チームメンバーのCちゃんのお父さんが、大船渡（気仙沼より少し北）に物資を届けに来ていましたが、受け入れを断られ、娘のいる気仙沼に来ることにし、気仙沼教会に物資を置くことになりました。そこに丁度、Kuさん

（第1チームが家の片づけを手伝ったお宅）が、Kaさん（気仙沼の教会員）から聞いて、支援物資を取りに教会に来ました。Cちゃんが荷物運びを手伝ってKuさんと家まで行き、Kuさんは先週の私達の働きをすごく感謝していて、何度もそのことを涙ながらに話していました。Cちゃんが、「神様がKuさんのことを愛しておられるから今生きていて、助けも与えられたんですね。私も辛いことがある時、神様が助け、励まし、慰めとなって下さいます。神様は簡単なお祈りをするだけで心に受け入れることができるんですよ。受け入れるお祈りをしたいですか？」と聞くと、Kuさんは「はい」と答え、一緒に祈ったそうです。ハレルヤ！翌日、教会の先生とKaさんがKuさんを訪ねてくれることになりました。第1チームはこれを聞いてうれしくて泣いてしまいました。主が本当に不思議な方法で道を開き、絶妙なタイミングでその場に私達を送って下さり、このようなみわざを見れたこと、ただただ主を賛美せずにいられません。それを聞いてすぐKaさんとも電話で話したのですが、私達が来たことを、その地域の人達は本当に感謝していて、いつもそのことを話してくれるそうです。私達に手紙を書きたいから、みんなの住所を教えてください。第1チームが先週一生懸命ヘドロを出した倉庫は今、その物資の置き場になっていて、地域の人達はとても喜んでおられるそうです。主のなさることは時にかなって美しい！！

関西からあらわれたDくんのお父さんの告白

チームメンバーのDくんは、まだクリスチャンではありません。そして、彼のお父さんはチームの働きに感動して、土曜日の朝、突然現場まで来てくださいました。お父さんは大学生時代、アメリカ人宣教師を通してキリストを受け入れたことがありましたが、卒業の後から今まで教会は行ってないと正直に話してくれました。Dくんも生まれて初めてそのことを聞いたそうです。Dくんが京都に戻っても、引き続きWスタッフと良い交わりの時を持ちながら、キリストに近づくことができ、救われるようにお祈りをお願いします。

「みんなが幸せになれることをしたんだな」



高校で毎週（休み時間にSIスタッフの呼びかけで行われている）レッツトークに1年生から行ってる。英語の練習とお菓子食べに行ってた。震災後すぐ（被災地に）行きたいと思ってたけど、行く方法も分からなかったし、今行っても迷って

話もあった。でも J さん（スタッフ）が、行ったと聞いて、自分もいけるチャンスがあるかも、と思った。J さんの写真を見て、ゴールデンウィークに連れて行ってよ、と言ったら CCC のを教えてくれた。ツイートで、「行動を起こしたい人は手段を探す。行動を起こしたくない人は言い訳を探す」とあった。自分は手段を探して今回できたから、これからも行動力ある人間になりたいと思った。ニュースで焦点あててる場所、あててない場所の差が激しい。川のこっちと向こうでも全然違うし、線路の向こうとこっちも違う。現実に見てよかった。来たかいがあった。被災者とも話せたし、喜んでくれたし。みんなが幸せになれることをしたんだな、と思った。（M 高校 2 年 ノンクリスチャン）

主は、東北の地で確かに働いておられます！

Love In Action を守り導いてくださった主に感謝します。最初のチームで気仙沼と大船渡で愛活動（Love In Action）し、今回は東松島に遣わされました。教えられたことは、(1)主は素晴らしい出会いを用意して下さること、(2)祈りの力、(3)主が東北の地で働いておられる事実です。

- (1) 主は、最高のメンバーと、福音を語るべき被災された方との出会いを与えてくださいます。お互いに初めて会うメンバーでしたが、すぐに仲良くなり、一人ひとりがなくてはならない存在になりました。それぞれが自分の賜物を用い、キリストの体の各器官として働くことができました。この素晴らしいチームメンバーを与えてくださったこと、被災者の方と関わる事ができたことを主に感謝します。
- (2) 現地ではいつも、祈りの力を実感していました。体力的に厳しい中、運転が守られたことや、メンバーが病気やケガから守られたこと、本当に感謝します。釘やガラスの破片が混ざったヘドロ、頭上には釘がむき出しの、真っ暗な床下での危険な作業が守られたことも、背後のたくさんの祈りがあったおかげです。本当にありがとうございました。何より、主に感謝します！
- (3) 主は、東北の地で確かに働いておられます。作業最終日、荒れ果てた東松島の地で主を賛美し、S さんのために祈る時間を持つことができました。賛美と祈りの後、鈴木さんの目から涙が溢れていました。本当に主は偉大なお方です。主の慰めと、福音が全ての被災された方々に届くことを祈ってまいります。

わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。――主の御告げ――それはわざわざいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。あなたがたがわたしを呼び求めて歩き、わたしに祈るなら、わたしはあなたがたに聞こう。エレミヤ 29:11～12

Y. K （2011 年 3 月 T 大卒業、中学校教師）

K くんは Love In Action 第 1 チームから帰宅した翌日が、中学校での仕事初日でした。東北の地で主が働いておられる！ことを体験して、自分の職場でも同じように主が働いてくださる！という期待と信仰を持って、仕事をスタートしました。そして、彼がこの「愛活動」（ボランティア）に参加したことは、すぐに学校の先生方の中でも広まり、それが、同僚である先生方から話しかけられるきっかけになり、信頼関係を築いていく機会となったそうです。そしてゴールデンウィークに次のチームに参加するために、休みを取ることもできました。また、授業の中でも、その体験を話してほしいという依頼が時々あり、6 月

18日には、学校が地域に公開する道徳の授業で、被災地での体験を話す機会を与られています！Kくんが神様に信頼しつつ、一つひとつのチャレンジに応答し、遣わされている中学校の中でも、主のご栄光をあらわしていくことができるようお祈りください。